

平成31年4月19日

ハッ場あしたの会 代表世話人 殿

国土交通省ハッ場ダム工事事務所
所長 朝田 将

2019年3月15日付で関東地方整備局長宛にいただいた「ハッ場ダムの代替地安全対策および地すべり対策が大きく後退したことに関する公開質問書」について、別紙のとおり回答させていただきますので、よろしく願いいたします。

(1)に対する回答)

- ハツ場ダム貯水池周辺の代替地については、技術的な指針等に基づき必要な安全性を確保することとしており、必要に応じて対策工事を実施するとともに、試験湛水により安全性を確認することとしています。
- 事業進捗の過程で、代替地の土地利用、調査や検討の結果等が明確化していくため、具体的な箇所や工法の変更はあり得ますが、基本的な方針には変わりありません。
- 必ずしも、それぞれの対策工事を個別に実施しているわけではないため、それぞれの対策工事の事業費をお示しすることはできませんが、お尋ねの地区で実施した追加的な対策の概要は以下の通りです。
 - ・ 川原湯地区①
 - 工法：押さえ盛土工
 - 幅：約150m（施工幅の最大値）
 - 長さ：約130m（法肩と法尻の水平距離）
 - 土量：約8万m³（ソイルセメント等）
 - ・ 川原湯地区②
 - 工法：擁壁工
 - 幅：約120m（施工幅の最大値）
 - ・ 川原湯地区③
 - 工法：押さえ盛土工
 - 幅：約140m（施工幅の最大値）
 - 長さ：約160m（法肩と法尻の水平距離）
 - 土量：約11万m³（ソイルセメント等）
- 盛土評価に用いた土質定数（C、 ϕ ）は、各地区で使用した盛土材の試験結果から得られた数値を採用しており、安全率等は、土地利用に応じた技術的な指針等に適合したものとなっています。

(2)に対する回答)

- ハッ場ダム貯水池周辺の地すべり（応桑岩層流堆積物などの未固結堆積物を含む）に対しては、技術的な指針等に基づき必要な安全性を確保することとしており、必要に応じて対策工事を実施するとともに、試験湛水により安全性を確認することとしています。
- 事業進捗の過程で、調査や検討の結果等が明確化していくため、具体的な箇所や工法の変更はあり得ますが、基本的な方針には変わりありません。
- 必ずしも、それぞれの対策工事を個別に実施しているわけではないため、それぞれの対策工事の事業費をお示しすることはできませんが、お尋ねの地区で実施した地すべり対策の概要は以下の通りです。

・二社平地区

工法：押さえ盛土工及び排土工
(押さえ盛土工)

幅：約 200m (施工幅の最大値)、
長さ：約 100m (法肩と法尻の水平距離)、
土量：約 14 万 m³

(排土工)

幅：約 70m (施工幅の最大値)、
長さ：約 80m (法肩と法尻の水平距離)、
土量：約 2 万 m³

・勝沼地区

工法：押さえ盛土工及び排土工
(押さえ盛土工)

幅：約 520m (施工幅の最大値)、
長さ：約 140m (法肩と法尻の水平距離)、
土量：約 44 万 m³

(排土工)

幅：約 400m (施工幅の最大値)、
長さ：約 180m (法肩と法尻の水平距離)、
土量：約 32 万 m³

・白岩沢地区及び横壁地区

工法：押さえ盛土工

幅：約 510m (施工幅の最大値)、
長さ：約 190m (法肩と法尻の水平距離)、
土量：約 59 万 m³

・久々戸地区

工法：押さえ盛土工

幅：約 70m（施工幅の最大値）、
長さ：約 40m（法肩と法尻の水平距離）、
土量：約 2 千 m³

- なお、ハッ場ダム貯水池周辺の地すべり等（応桑岩層流堆積物などの未固結堆積物を含む）の調査にあたっては、航空レーザー測量図の活用、高品質ボーリングの活用など、技術的な指針に基づき、より高精度な調査を実施しています。